地域支援ネット架け橋

ニュースレター 6月号

召された聖徒たちへ

2018年6月11日　発行　No.23

ローマにいるすべての、神に愛されている人々、召された聖徒たちへ。
私たちの父なる神と主イエス・キリストから恵みと平安があなたがたの上にありますように。

ローマ人への手紙1章7節

◆召命を確認する（文責：中澤　竜生）

前回のニュースレターで「今年の3.11からの活動では、まず遠くから見守って様子を」と記しました。その間に私自身が向き合うものを今回はお伝えしたいと思います。
「力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。」（箴言4章2節）

① 召命を受けた者

2015年秋頃、帰宅しようと南三陸町のホテル観洋を通り過ぎたとき、心の内から次の御言葉が湧き出てきました。
「測り綱は、私の好む所に落ちた。まことに、私への、すばらしいゆずりの地だ。」（詩篇16篇6節）

それまで私は、自分が行ってきた支援活動について「このままで良いのか？」と自問自答を繰り返していました。きっと震災当初から同じペースで活動し続けてきたために、不安やストレスがあったのだと思います。そのことから将来の確かさが見えなくなっていました。

そんな気持ちの中で湧き出た御言葉から覚悟と決意が与えられたのでした。煮え切らず、何度も自問自答していた私でしたが、その度にイエス様はあらゆる出来事や人を通して励ましてくださいました。この時も御言葉を通して、私を励まし、召命を受けた者としての使命を思い起こさせてくださったのです。

② 召命を受けた者は訓練される

「ゆずりの地」とは神様から預かった地を意味します。ゆずりの地で何をするのか？その御言葉を吟味した時、私は当然のように「一歩踏み込んだ福音を伝えること」として理解しました。そして、そのようにイエス様がしてくださることを信じようと決めたのです。

それから私は、とにかく現場に行くことを心がけました。その先々でイエス様のことを語り、現場で祈り、悩みを聞いた時には主にあって励ますようにして関わっていきました。

このようにして関わってきた各地域では今もなお良い交流を持つことができています。しかし、あれから2年が経過し、覚悟と決意はあっても喜びが湧いてこないことを実感しました。それは、イエス様が私に目的として与えた「御国の構築」が見えてこないからです。

前述したように、地域コミュニティ支援を通して各地域に住む方々とは良い交流が持てており、信頼もされていました。しかし、それ以上の進展がなかったこともまた当時の現状でした。そのことを思い詰めていたとき、応援してくださる皆様をはじめ、東北ヘルプ理事様からも主と交わる休息の時を持つことを愛をもって勧めてくれました。

初めはどうやって休めば良いのかさえ分からず、ジレンマに陥ったことを覚えています。3ヶ月ぐらいは平静ではありませんでした。しかし、休息の時を持つうちに福音事業に始めるにあたり、重要であることについて気づかされました。それは、その事業の詳細を知ることです。

事業にとって第一に重要であり、始点は「召命を受けている」ことです。その召命について理解し、訓練することが必要とされます。

第二に、事業の目的を全うするためには、神様から召命を受けた人が他にもいて、協働を勧めておられると理解することが重要です。それは「木の下に集まる教会」と教えられます。そこでは、決して召命を受けた者同士に争いや垣根があってはいけないのです。そして、これがリバイバルへの道なのです。ですが、簡単な話ではありません。この道のりには「修養訓練」が必要です。

「神は再びある日を『きょう』と定めて、長い年月の後に、前に言われたと同じように、ダビデを通して、『きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。』と語られたのです。」（ヘブル4章7節）

③ 神様の事業とは何か

「この方にあって私たちは御国を受け継ぐ者ともなりました。みこころによりご計画のままをみな行う方の目的に従って、私たちはあらかじめこのように定められていたのです。」（エペソ1章11節）

私の働きは地域支援に取り組んでいるために、信じていただくためのアプローチを弱くすることに努めました。そもそも文化が根強く残る地域で、支援と両立して伝道、教会施設および牧会を一人でこなそうとは思っていません。もしそれを実行したとしても答えは見えているからです。

一人でも多くの方をイエス様に繋げたいとするなら、これまでの方法ではなく「層による召命を受けた者との協働」がもっとも有効的であると考えます。それなら、たとえ社会問題（過疎化・少子高齢化）を抱えている地域であっても、地域の福音化は可能となるように思うからです。

漁師の佐藤長次さん（左）
と中澤竜生・佳子夫妻

④ 層による取り組み

私の召命は「土壌開拓」です。この先5年、10年あるいは20年経っても「土壌開拓」をし続けることです。神様は、そんな私に賜物を与えてくれました。

それと並行して「クリスチャン関係の強化」に取り組むことです。それも「御国の福音構想」を目標としています。この優先順位が大切です。

召命を正しく理解していない場合は、その働きに垣根ができやすくなります。しかし、天国では神様の御前でクリスチャンは一つです。私は、地上でもそれを目指すことを考えます。そして、このような召命が与えられ、神様の目的を知って、協力（調和）しながら建て上げる「御国の福音事業」について日々思いを巡らせています。

様々なタラントを持ち合わせた方と層に分け、地域貢献しつつ、御国の福音を提供していくとともに、日本の宣教を進めていきたいです。（次回号に続く）

◆東日本大震災を振り返って　その４
自信をもって福音を携える（文責：中澤　義道）

前回のニュースレターで私は主に二つのことについてお話ししました。一つ目は、実際に南三陸に滞在することで「近くにいるからこそできる支援」が可能となり、地域に寄り添った働きにつながったことです。二つ目は、「助けたい」「力になりたい」という気持ちだけで活動したことによって、絆とは何かを理解できるようになったことです。今回はその続きについてお話ししたいと思います。

「助けたい」というシンプルな気持ちで支援活動を行なっていましたが、多くの試練にも遭いました。その度に、私は相手に不快感を与えないための自分の振る舞い（言葉遣い・行動）や、相手の心情に寄り添うための配慮について考えさせられました。試練に遭い、行動や言動を吟味することによって「義道君とはいろんな話ができて楽しいよ」「こうやっ

て義道君に話を聞いてもらえるといつも嬉しいんだ」と言われるようになりました。その時に「寄り添えているんだ」と感じて、毎日の活動に楽しみを覚えました。南三陸での活動は自分自身に徳を与え、大人になるにつれて必要とされる人格の成長の一助になりました。
「自分に委ねられた良いものを、私たちのうちに宿る聖霊によって守りなさい。」（テモテへの手紙第二1章14節）
私がいろんな人と話をして楽しい時間を過ごしたいと感じることは、神様が与えてくださった良いものであると感謝してなりません。
　そして南三陸町で交流を深めると、現地の方の「キリスト教を知りたい」という気持ちが前よりも湧くようになったと感じました。当初は支援する理由について聞かれた時、宗教を介入させて良いのか悩み、その時確信していたただ「助けたい」という気持ちだけを伝えていましたが、今は自信をもって私の信じる神様のことを伝えることができました。
　その一つとして茶話会をしている時でした。普段は多忙で参加されない漁師のS氏が足を運んでくれました。茶話会のプログラムで一般歌謡曲や賛美、証を聞かれた時にイエス・キリストに対して様々な気持ちが湧いたようでした。
「すべての人の救い主っていうのは俺もその中に入っているのか？」
「なんだか賛美って心に響いてくるなぁ」
その時、自然に私たちの神様はいつもS氏を気にかけて愛を注いでくださっていることをお話ししました。するとイエス様について「神社でお参りするよりも繋がっているような温かさを感じる」「普段クラシックを聞くように賛美を聞いていたい」とその日嬉しそうに茶話会の時を過ごしてくださいました。
　私はイエス様の話をすることができた時に、行って宣べ伝えることの使命があることを思い出し、実践できたことを嬉しく思いました。現在も私は人と関わる中で自分の未熟さゆえに失敗したり、叱咤を受けることがあるのですが、いつでも自信をもって福音を伝えることができるように人と関わることをこれからも大切にしたいと思います。
「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。『わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。』」（マタイ28章18節～20節）

◆今後の活動のご案内

◆キリシタン史跡ボランティアガイド養成事業に参加しています。
1回目：5月26日（終了）
2回目：6月16日
3回目：7月28日
4回目：8月25日
最終：10月上旬
【事業趣旨】3地域（大籠地区・米川地区・馬籠地区）が一体となり、共通のガイド養成、史跡の保存、伝承・普及の充実を図り、地域の復興発展を寄与することを目的とします。

◆宮城三陸3.11東日本大震災追悼記念会を2019年3月9日、11日に開催します。今回奉仕してくださるアーティストは、久米小百合さんと向日かおりさんとなります。

◆6月20日から22日 「琴と太鼓のコンサート」を開催します。このコンサートは復興住宅にある集会所を会場とし、コミュニティー支援を行います。

◆架け橋スタッフからお祈りのお願い

この度は地域支援ネット架け橋ニュースレター23号をお読みくださり、誠にありがとうございます。
地域支援ネット架け橋の活動の主体である「宣証」を守るために、年間300万円の活動費を必要としております。
皆様にはこの活動費が満たされること、地域支援ネット懸け橋の支援の輪がより広がること、
現場において支援活動を継続する中澤竜生氏、佳子氏のためにお祈りくださいますようお願い申し上げます。
※活動の費用内訳については会計ページをぜひご覧ください。

尊いご支援に心から感謝いたします。

前回繰越金：365,550円

献金収入合計：297,000円（2018年4月11日～5月31日）

献金を捧げてくださった団体様及び個人様（敬称略順不同）

基督聖協団西入間伝道所、佐藤由紀夫、基督聖協団信徒会、都筑コミュニティ教会、
基督聖協団若潮教会、金原雅子、伊勢原聖書キリスト教会、綾瀬東部教会、福音伝道団本庄キリスト教会、
日本イエス・キリスト教団京都聖徒教会、基督聖協団上田教会、東北ヘルプ、基督聖協団中川教会、
仙台宣教センター

献金支出合計：460,800円（2018年4月11日～5月31日）

【内訳】車両費交通費（車税・名義変更含）：123,900円、事務費/通信費：37,300円、
啓蒙活動費：37,000円、ネットワークサポート費：20,600円、慶弔費：10,000円、
追悼会支援費（内慰労会費）：0円、茶話会（cafe）地域/自治会コミュニティー支援費：0円、
年中行事費：0円、困り事支援費：0円、雑費：2,000円、架け橋スタッフ費（5名）：230,000円

次回繰越金：201,750円

― ご協力のお願い ―

銀行名　　：**七十七銀行 宮城町支店**
口座番号　：**普通 5497795**
名義　　：**キリスト聖協団西仙台教会かけはし会計 中澤佳子**

ゆうちょ銀行口座名義　：**地域支援ネット架け橋(チイキシエンネットカケハシ)**
店名　　：**二二九店**(ニニキュウ)（229）
口座の記号・番号　　：**02290－3－141031**
当座　　：**0141031**

PayPal(ペイパル)を利用してクレジットカードの支払いができます。
＊これにより海外より応援していただくことも可能です。

PayPal検索用アドレス　：**yoshiko.n36@gmail.com**
事務局　　：**地域支援ネット架け橋**
所　在　　：**宮城県仙台市青葉区愛子東3-14-22**
発行元　　：**山形県天童市三日町二丁目6-14**
電　話　　：**090-1069-3925**
活動スタッフ　　：**中澤竜生、中澤佳子**
事務スタッフ　　：**中澤義道、中澤愛美**

◆お問い合わせはこちらのメールアドレスへ　→　**kakehashi.net@gmail.com**
◆地域支援ネット架け橋の活動内容はこちらのHPから　→　https://www.kakehashi2013.com